

週刊センターニュース No.164



第164号(2007年6月25日) 毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

第152回共同学習会のご案内

日時: 6月28日(木) 16時30分～18時

使用教室: 金沢大学角間キャンパス総合教育棟2階大講義室

テーマ: 初年次教育とポートフォリオ評価

報告者: 堀井祐介(大学教育開発・支援センター)

趣旨: 5月18日(金)に参加した関西国際大学主催シンポジウム「初年次教育とポートフォリオ評価」で報告されたEポートフォリオ活用事例を紹介するとともに、大学教育、特に初年次教育におけるポートフォリオ活用の有効性について議論したい。

角間キャンパス屋外緑化(植樹)に参加して

6月23日(土)、角間キャンパス南地区自然科学本館東側で、屋外緑化(植樹)の作業が行われた。前日に梅雨入りしたばかりであったが、晴天に恵まれた。午前10時、林学長の挨拶の後、法面に参加者が一斉に散らばり、スコップやシャベルで植え付け用穴を掘り、元肥を入れたうえで、アラカシなどのポット苗を植えた。雑草防止のための杉皮を敷き詰め、水遣りまでで約1時間半の作業を終えた(苗の数、参加者数等は、後日、施設管理部等で報告されると思われる)。自然研生協で参加賞?の飲み物をいただいた後、私は、足湯も使わせてもらった。

キャンパス屋外緑化については、すでに、本誌第127号(昨年9月25日刊)でもとりあげた。そのとき報告した総合メディア基盤センター脇の法面の苗も、また、昨年12月に総合教育棟西側に植えられた苗も、順調に育っている。

今回の植樹には知り合いの経済学部2年生も参加しており、教員、職員、卒業生、金大生協職員、そして地域の人々などと一緒に作業をしていた。＜緑化を教育のなかに位置づけ、学生の力を活用したキャンパス作り＞＜学生の学習環境は同時に教職員にとっての研究・労働環境＞という考えでのこの動きは着実にスタートを切ったといっていよう。次回の植樹は、11月、大学祭のころに予定されている。本学の学習・研究環境において周囲の緑の存在は貴重であり、都会にある、交通の便が良い、という立地条件の大学が望むべくもない本学の特長である。次回も、優れた学習・研究環境づくりのために、研究室単位等での多くの方々の参加を望みたい。

(文責: 教育支援システム研究部門 青野 透)

梅田望夫・茂木健一郎『フューチャリスト宣言』(ちくま新書)を読んで

先月出版された標記書に興味深い情報があったので紹介したい。45頁以下の茂木氏の指摘で

ある。(NHKテレビの『プロフェッショナル仕事の流儀』での話から)「(石井裕教授が)MIT(マサチューセッツ工科大学)のテニユア(終身教授資格)をとったときに、どういう審査をされたか」といって、『それまで誰も手をつけていない分野を切り拓いたかどうか』ということをして、世界中の影響力を持つ10人くらいの人からのヒアリングにもとづいて判断された。」「MITはいままでに63名のノーベル賞学者を輩出していますが、そこでも競争原理は、他の人といかに違うことをやるか、ということなんです」。この指摘は、学生に対して厳格な成績評価をするのと同様、教員に対して厳格な評価をするのは当然であるが、その基準をどのように具体化するかに関する議論において、参考になる。(セクハラ・アカハラ教員をどうするかというレベルでの議論をせざるをえないような大学も含めてである)

私は、『日経サイエンス』から書評の依頼を受けるようになった6・7年前からだろうか、この雑誌に掲載される茂木氏のクオリアなる言葉が気になっていた。そして授業では、岡山大学医学部附属病院の小児外科医・佐野俊二教授をとりあげた、上記テレビ番組からの「腕は修羅場の数で決まる」「楽をすれば腕が落ちる」「簡単には専門家になれない」「誇りだけで責任のとれない人はだめです」という言葉を、共通教育でも薬学部専門教育でも、好んで紹介してきた。ミニッツペーパーに記されてくる受講生の反応は、これらの言葉が、自分はどんな専門家を目指すべきか、について考えるための材料として有用であることを支持してくれるものばかりである。茂木氏は、優れた研究者は優れた教育力(対談相手からの的確な言葉を引き出す能力)を持ちうることの代表例といえよう。

ちなみに本書は、ネット社会でこれからの大学はどう進むべきか、という問題提起の書ともなっている。一読を薦めたい。
(文責:教育支援システム研究部門 青野 透)

SDに最適の小冊子の紹介

名古屋大学高等教育研究センターから、「ティップス先生からの7つの提案 教務学生担当職員編」が送られてきました。先月刊行です。はしがきには、<センターと学務部学務企画課が協力して、教務学生担当職員は教育の質向上のために何ができるのかを検討した>成果とあります。

同センターは、<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/support/> にありますように、教育力向上のための種々の冊子を作製し、しかもHPにもそれを公開しており、日本の高等教育改革推進に大きな影響を与えてきています。上記冊子は、職員さんたちを巻き込んだのものであり、文字通り、大学挙げての教育改革の象徴となると思われます。

すでに閲覧にいられた部局学務係もあります。当センターで所蔵しますので、ご活用いただければ幸いです。
(文責:教育支援システム研究部門 青野 透)

高等教育に関連する学会・セミナー情報

・6月29日(金)13:00-14:30 東北大学「国際連携を活かした高等教育システムの構築」プロジェクト:「UCバークレーの高等教育支援と戦略について」

場所:東北大学川内キャンパス管理棟3階 大会議室

詳細は、<http://www.he.tohoku.ac.jp/center/2007project/2007project9.pdf> をご参照下さい。